

文の組み立て 2 学習日 月 日 ()

☆ 次の文は、「うれしそうに」が「見ていた」を修飾するのか、「ひく」を修飾しているのか、はっきりしないために、二通りの意味にとることができません。

母がうれしそうにピアノをひく妹を見ている。

①では、母が「うれしそうに見ている」ですが、②では、妹が「うれしそうに（ピアノを）ひく」となります。

① 母が うれしそうに ピアノを ひく 妹を 見ている。

② 母が うれしそうに ピアノを ひく 妹を 見ている。

☆ 右の文に、点(・)を打ったり、言葉の位置を入れかえたりして、意味のはっきりわかる文にしましょう。

うれしそうにしているのが母の場合

うれしそうにしているのが妹の場合

☆ 次の文を、の中の意味が正確に伝わるように、点(・)を打ったり、言葉の位置を入れかえたりして、書き改めましょう。

大きなきずのついたりんごを安く手に入れた。

きずが大きい場合

りんごが大きい場合

家の人のしるし↓

漢字の由来 1

学習日 月 日 ()

漢字は、三千年以上も昔に、中国の言葉を
書き表すために作られた文字です。漢字の成
り立ちは、四つあります。

1 物の形を写しとった絵文字を、かんたんな形
に変えていつてできたもの

象形文字

2 形がないために絵をかくのがむずかしいこと
を、点や線などの記号で表したもの

指事文字

3 象形文字や指事文字を組み合わせて、新し
い意味をあらわしたもの

会意文字

4 音を表す部分と意味を表す部分とを組み
合わせたもの

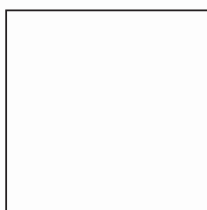
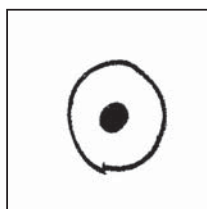
形声文字



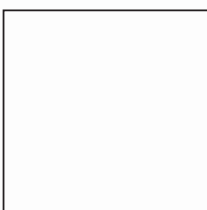
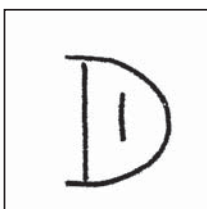
このページでは、
「象形文字」と
「指事文字」を
学習しましょう。

☆ 次の絵や記号からどんな漢字ができたで
しょうか。□に漢字を書きましょう。

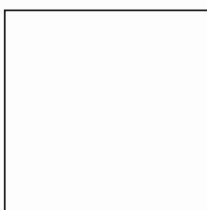
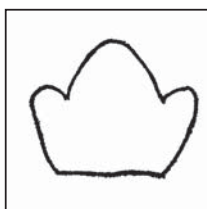
①



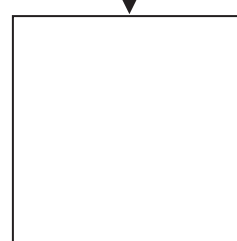
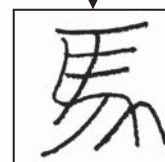
②



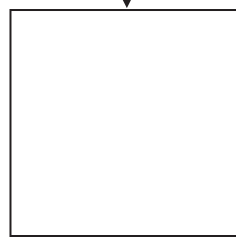
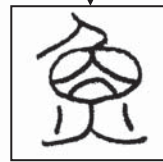
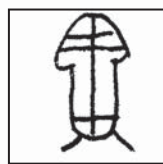
③



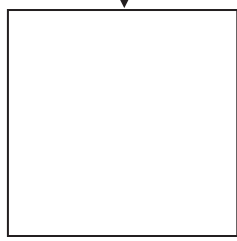
④



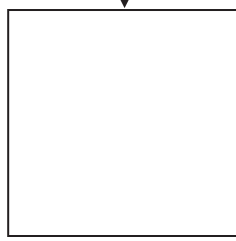
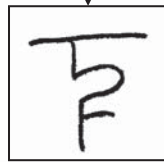
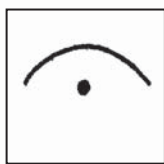
⑤



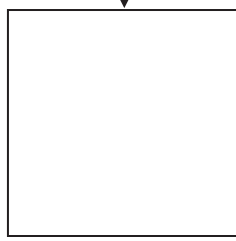
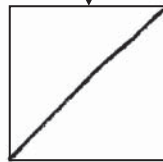
⑥



⑦



⑧



家の人のしるし↓



漢字の由来 2

学習日 月 日 ()

漢字は、三千年以上も昔に、中国の言葉を書き表すために作られた文字です。漢字の成り立ちは、四つあります。

1 物の形を写しとった絵文字を、かんたんな形に変えていってできたもの

象形文字

2 形がないために絵をかくのがむずかしいことを、点や線などの記号で表したものを、

指事文字

3 象形文字や指事文字を組み合わせて、新しい意味をあらわしたものを

会意文字

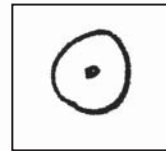
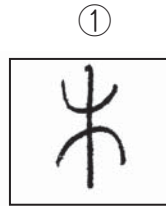
4 音を表す部分と意味を表す部分とを組み合わせたものを

形声文字



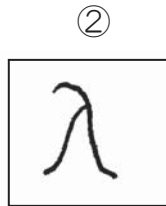
このページでは、「会意文字」と「形声文字」を学習しよう。

☆ 次の絵や記号からどんな漢字ができたでしょうか。□に漢字を書きましよう。



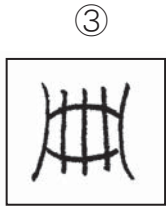
ヒント

木の向こうからお日さまがのぼってきます。



ヒント

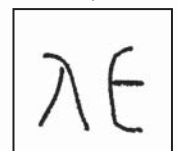
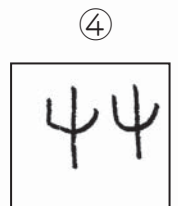
「人」と「言」をあわせると・・・。



ヒント

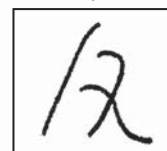
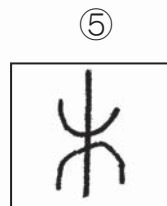
書物と机を合わせた字。机の上においた「大切な書物」という意味。

家の人のしるし ↓ □



ヒント

「艸」(草)と音「化」の組み合わせ。



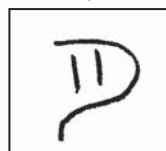
ヒント

「ハン」「バン」と読みます。



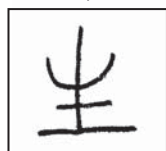
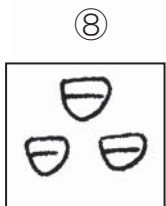
ヒント

かたちをうつし出す金属の道具。



ヒント

「キ」と読みます。「前〇」に入る漢字です。



ヒント

きらきら光るものです。「セイ」と読みます。

5-14

意味をそえる言葉

学習日 月 日 ()

家の人のしるし ↓

① 休けい時間が十五分ある。
 ② 休けい時間が十五分もある。
 ③ 休けい時間が十五分しかない。



① は、休けい時間が十五分だということそのまま伝えていません。
 ② の「も」は、十五分が思ったより多い時間だという意味をそえています。
 ③ の「しか」は、十五分が思ったより少ない時間だという意味をそえています。

☆ 次の二つの文は、意味がどちらがうでしよう。「も」「しか」のそえている意味を答えましょう。

- ① 今年はお年玉を五千元ももらった。
- ② 今年はお年玉を五千元しかもらえなかった。

① の「も」は、

② の「しか」は、

☆ 次の文の——線を引いた言葉は、それぞれ、どんな意味をそえているでしよう。

- ① 日曜日ぐらい朝ねぼうをさせてほしい。

② 今年こそは日記を続けて書く。

③ 兄はすきやきの肉ばかり食べる。

④

鳥取の特産品 「ばばちゃん」

「ばばちゃん」とは、学名タナカゲンゲという深海魚のことです。味は鱈のようですが、ふりぷりとした歯触りが特長です。鍋の材料として、親しまれています。

☆ 読みがなを書きましょう。

() () () ()

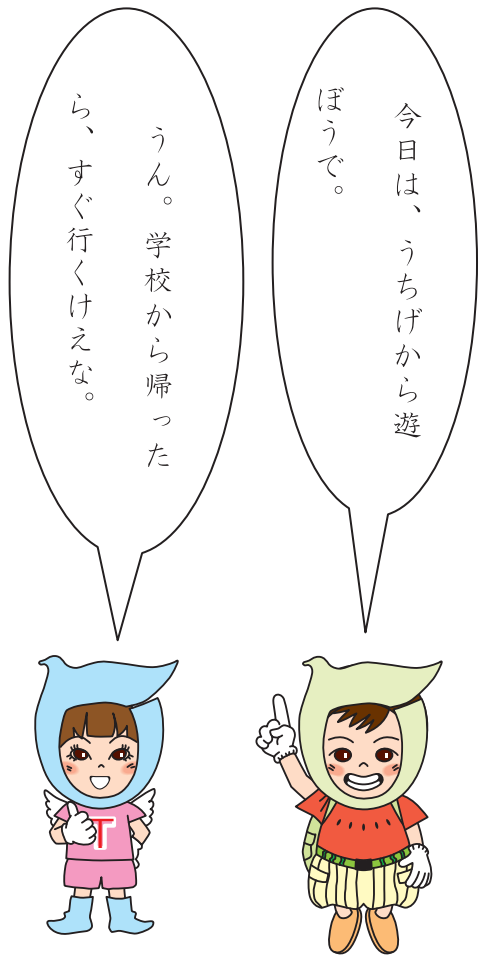
深海魚

鱈



☆ だいすけさんのクラスでは、東京から転校してきた友達が多く学校生活を送ることができるよう、鳥取の方言を紹介するガイドブックをみんなで作ることにしました。だいすけさんの作ったページを参考に、あなたも作ってみましょう。

だいすけさんの作ったページ

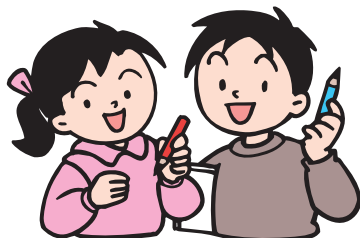


鳥取県東部・中部方言では、「くから」の使い方には特色があります。「うちげから遊ぶ」とは、「ぼくの家で遊ぶ」という意味です。ぼくの家からどこかへ行って遊ぶという意味ではありません。「行くけえな」は「行くからね」ということです。

次の順番で作ってみましょう。

- ① 学校生活で友達と会話をしている場面を思いつかべましょう。鳥取の方言を使っていることはありませんか？
- ② 絵とふきだしでその会話の様子を表しましょう。
- ③ 最後にかんたんな説明を書きましょう。

あなたの作ったページ



家の人のしるし↓



鳥取の方言 2

学習日 月 日 ()

☆ 鳥取県内には、さまざまな方言があります。次の方言を共通語にすると、どのようなになるでしょう。例にならって、()に書きましょう。

例 目がはしる。

(目が しみて いたい。)

① 石に つまずいて まくれる。

()

② がいな じゃがいもを ほった。

()

③ そのの 戸を たつて。

()

④ この するめは しわい。

()

⑤ どんどろけが なって きょーてー。

()

⑥ はよーいなあで。 はや、かえらいや。

()

⑦ ああ、たいぎ。

()

⑧ この 田んぼは じるい。

()

⑨ 新聞紙を からむ。

()

⑩ おかしを 歩きもって 食べるのは、ぎょうぎが

わるい。

()

鳥取県の祭り

米子市では、毎年夏に「米子がいな祭り」が開かれます。「がいな」は米子弁で「大きい」という意味です。がいな太鼓、やんちゃよさこいなどの勇壮なイベントが終日繰り広げられます。

☆読みがなを書きましょう。

がいな太鼓

() () ()

勇壮



☆ 聞き手が、場面の様子を思いうかべることができるように、工夫しながら音読をしてみましょう。声の大きさ、話す速さ、間の取り方を考え、工夫することを書き込んで、さらに練習をしましょう。

俳句じょうず

むかしある村に庄屋さんがあっただつて。

なんでもことしやあ、村のもんに、俳句をつくらせて、じょうずにつくったもんにほうみ(ほうび)をやるちゅうことにしようと思つて、村じゅうに、ふれを出しただつて。そのふれがなあ、こがにいだつて(こつというのだつて)。

「俳句の題が『りん』で、いちばんじょうずもんに、がいな(たくさん)ほうみをやるけえ、つくつてこい。」

ちゅうことだつたさあなわい。そがしたら村じゅうのもんが、てんでに俳句をつくつて出しただつて。

で、その中にとりどうしのおすめがあつて、ふたりがつくらあいちゅうことで、つくつたさあなわい。片ほうは、ぶげん者(金持ちの家)のおすめで、

かき根ごし 一輪さいたる ウメの花

つてつくつたし、もう片ほうは、ひやくしよう家のおすめで、

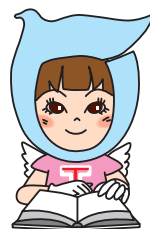
りんとそつたる 生イワシ 菜めしにそえたら 腹もぼてりん

つてつくつたし、どつちもようつくつてあるちゅうところで、庄屋さんが、がいに感心しなはつて、がいなこと、がいなことほうみをもつただつて。

むかしこつぽりごんぼの葉。

出典 鳥取県小学校国語教育研究会編
「鳥取のむかし話」

この「俳句じょうず」は倉吉市に伝わる昔話です。ですから、中部地方の方言での語りになっています。あなたの住んでいる地方の方言で語るとどうなるでしょう。ノートに書きかえて、語ってみましょう。



「りん」にまつわる話

「俳句じょうず」の中で、ひやくしよう家のおすめが詠んだ「りんとそつたる 生イワシ」とは、どんなイワシだと思いますか。あなたの予想を書いてみましょう。



家の人のおしるし↓



古典に親しもう 1 学習日 月 日 ()

「竹取物語」は、「今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。」で始まる物語でしたね。かぐや姫は成長し、美しい姫だというわさが広まると結婚を申しこむ人が多く集まってきました。中でも熱心に申しこむ五人の貴公子にはどうしても断ることができません。かぐや姫は、望みの品物を持参した人と結婚するといいい、それぞれ難しい問題を出しました。

☆ 次の文章は、その中の一人くらもちの皇子がやっと探しあてた蓬莱山の様子を語る古典の文章です。声に出して、読みましょう。「ならむ」のところは、「ならん」と()の字を読みます。

これやわが求むる山(ん)ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり、見歩ありくに、天人のよそほひ(お)したる女、山の中よりいで来て、銀しろかねの金錠かなまるをもちて、水をくみ歩く。これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ(う)。女、答へていはく、「これは、蓬莱ほうらいの山なり。」と答ふ(う)。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

(出典 「竹取物語」から) 読んだら、○を●にしましょう。

音読チェック○○○

家の人のしるし↓

☆ 次の文章は、上の文章を今の言葉にしたものです。二つの文章をくらべて読んで、気がついたことを次の、()に書いてみましょう。

【現代語で書くと】

これこそわたしが探し求めていた山だろうと思って、やはり恐ろしく思われて、山の周囲をこぎ回らせて、二、三日ばかり様子を見て回っていると天人の服装をした女性が、山の中から出てきて、銀のお椀わんを持って、水をくんでいます。これを見て、わたしは船から下りて、「この山の名は何ですか。」とたずねました。女性は答えて、「これは蓬莱山です。」と言いました。これを聞いて、わたしはうれしくてたまりませんでした。

この話の続きでは、くらもちの皇子は、とても苦労して、蓬莱の玉の枝を探したように語っています。ところで、この話…作り話なのです。蓬莱の玉の枝は、職人さんたちに作らせたものだったのです。続きもぜひ読んでください。図書館で本を探して、読んでみましょう。



古典に親しもう 2 学習日 月 日 ()

みなさんは思ったことや考えたことを文章に書いていますね。昔の人も同じように、文章を書いています。今と昔では、ものの見方や考え方は、同じでしょうか？

平安時代に書かれた清少納言の「枕草子」第一段には「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこし明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」で始まり、季節の美しさを書いています。では、「夏」「秋」「冬」はどのように書いているのでしょうか。みなさんの感じ方とくらべてみましょう。

☆ 次の文章は、続きの部分です。音読をしましょう。 音読チェック〇〇〇

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光て行くもをかし。雨など降るもをかし。

(現代語訳)夏は夜。月が明るいころ(満月のころ)は、いうまでもなく、やみのころ(新月のころ)であっても、やはり、ほたるが多く飛び交っているのがよい。また、ほんの1、二ひきほのかに光っているのも趣がある。雨などが降るのもいい。

注：・をかし↓趣がある↓深い味わいがある。

☆ 枕草子第一段「夏」「秋」「冬」を読んだ感想を自由に書いてみましょう。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて、雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。

(現代語訳)秋は夕暮れ。夕日がさして山の端にとても近づいたところに、鳥がねぐらへいくというので、三、四羽、二、三羽など飛び急ぐことまでもしみじみとしたものを感じさせる。雁などが列を作っているが、たいそう小さく見えるのはたいへんおもしろい。日がすっかり沈んでしまつて、風の音、虫の音など聞こえるのもいいようもないほど趣深い。

冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

(現代語訳)冬は早朝。雪が降っているの言うまでもない。霜が真っ白なものも、また、そうでなくても、たいそう寒いときに火など急いでおこして、炭をもつて廊下などを通って行くのも、たいへん似つかわしい。昼になって、寒さがだんだんゆるんで、火桶の火が白い灰ばかりになるのはよくない。

家の人のしるし↓



古典に親しもう 3 学習日 月 日 ()

枕草子の中で清少納言は、それぞれ季節の良さを感じることができ
身近なものを取り上げて、書いていましたね。では、あなたも「春はあけぼ
の」の文章のように、その季節にすばらしいと感じる身近なものごとを取り
上げて、文章を書いてみましょう。

トリリンが書いた文章です。



夏は、海。

わたしは、夏になるとかいかい海岸で海水浴をします。
日本海は、とてもきれいな海です。その海で泳いでいる
ときが一番気持ちよく、楽しいです。

冬は、大山。

ぼくは、大山の近くに住んでいます。冬になると、スキ
ー場に家族と行きます。小さいころは、そりで遊んでい
ましたが、今では、スキーができるようになりました。
大山は、どの季節も美しいのですが、白くなった冬の
山が一番好きです。

らっきいが書いた文章です。



家の人のしるし ↓

--	--	--	--	--	--	--	--	--

書いたら、友達と文章を交かんして読み比べ、感想を伝え合いましょ
う。自分の見方と同じかな？それとも、違うかな？ものの見方や感じ方
はさまざまですが、見方を変えると自分の世界が少し広がりますよ。